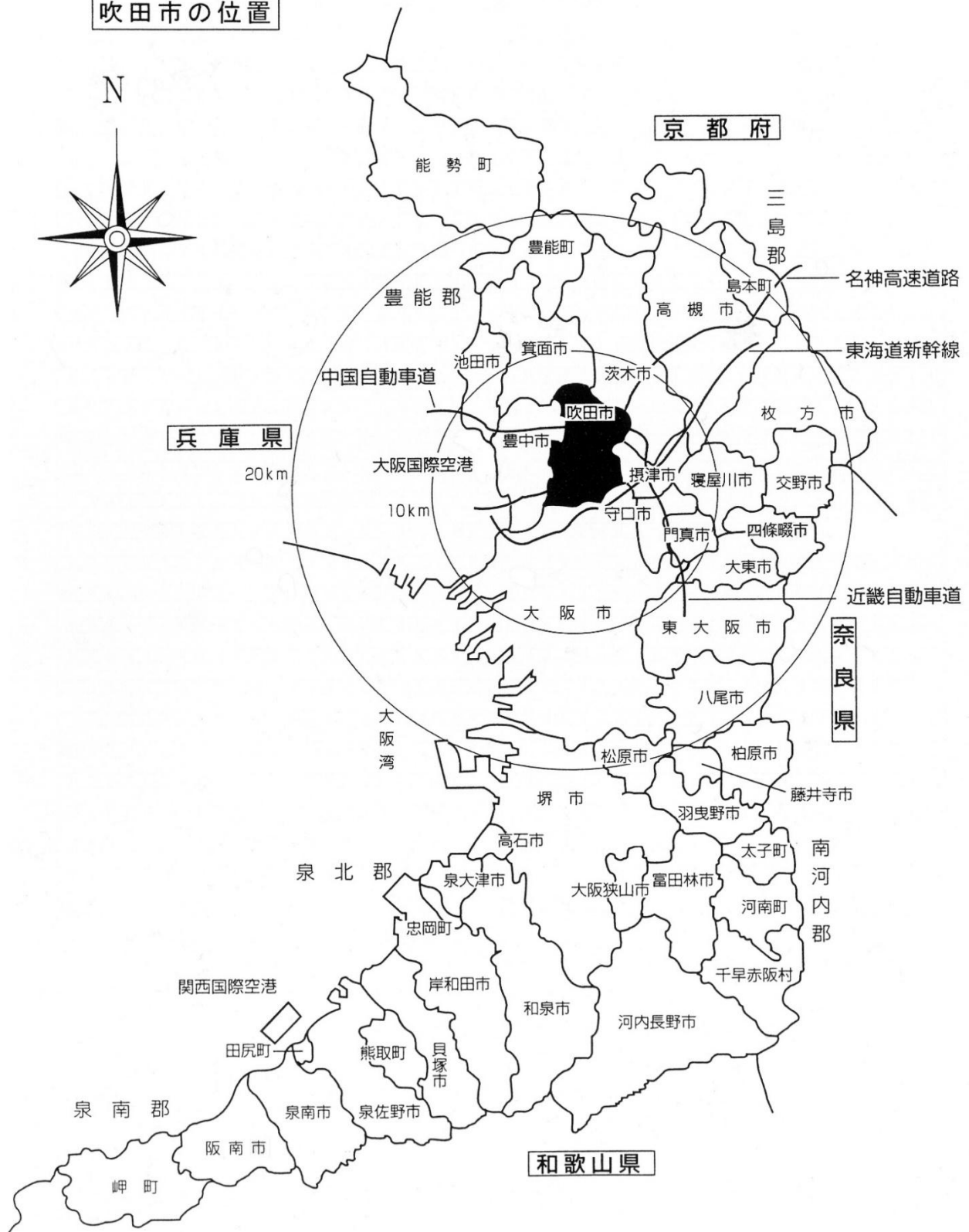


総 説 編

概要

吹田市の位置



吹田市の概要

1 地 勢

吹田市は大阪府の北部に位置し、南は神崎川を隔て大阪市に、北は箕面市・茨木市に、東は摂津市に、西は豊中市に隣接している。

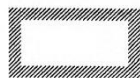
千里ニュータウンを擁する市域北部は、樹枝状浸食谷の発達した標高 20m から 115m のなだらかな丘陵となっており、南部は安威川・神崎川・淀川をつくる標高 10m ほどの沖積低地である。気候は温暖で、面積は 36.09 km² である。

2 歴 史

吹田の地名は、「行基年譜」の天平 13 年記（741 年）に「次田堀川」とあるのが初見で、「醍醐雑事記」には、貞観 7 年（865 年）に淳和天皇の皇子・基貞親王の領田として成立した吹田庄が、後に清住寺に寄進されたことが記されている。吹田がにぎわいをみせるようになるのは、延暦 4 年（785 年）に三国川と呼ばれた神崎川と淀川を直結させる工事が行われて以後のことで、吹田は陸路・水路とも、西国と京都を結ぶ交通の要所となり、河港として発達し、荘園が設けられ、貴族の遊行の地ともなった。

明治 9 年（1876 年）には大阪・京都間に官営鉄道が開通し、吹田と大阪は 20 分間の距離となり、続いて明治 24 年（1891 年）、地下水が豊富で水運のよい吹田に、現アサヒビールが工場を開設、大正 12 年（1923 年）には国鉄吹田操車場が操業を開始し、“ビールと操車場の町”と言われるようになった。大正 10 年（1921 年）には、大阪市内と結ぶ北大阪電鉄（現在の阪急電鉄）も開通し、大阪市の商工業の発展に伴い、近郊住宅地として開けた。明治 41 年（1908 年）に町制を敷いた吹田は、昭和 15 年（1940 年）には隣接する豊津村、岸部村、千里村と合併し、人口 6 万 3,181 人の吹田市が誕生。戦後、昭和 28 年（1953 年）には新田村のうち下新田と、昭和 30 年（1955 年）には山田村と合併して現在の市域となり、これらの合併が千里ニュータウンや万博、大学用地として新しい時代の基礎となった。

市域変遷図



市制施行	昭和15年（1940年）4月1日
市役所の位置	東経 135° 31′ 01″ 北緯 34° 45′ 34″
面積	36.09 km ²
広 ぼ う	東西 6.3 km 南北 9.6 km
海 抜	最高 115.7m 最低 1.5m

市制施行時の吹田市域 20.45 km²

3 現 況

現在、吹田市の人口は約 39 万人で、大阪府が公表している令和 8 年 3 月 1 日現在の推計人口によると、大阪府内 33 市では 5 番目に人口の多い都市である。また、令和 2 年（2020 年）4 月 1 日に、中核市に移行した。

大阪市近郊の住宅都市としての吹田の発展は、大正時代の北大阪電鉄（現在の阪急電鉄）の開通から始まり、昭和 30 年代の千里ニュータウンの建設、入居によって決定的となった。千里ニュータウンの完成・入居と、それに続く周辺住宅開発によって、千里ニュータウン入居前の昭和 36 年（1961 年）の人口、約 12 万 8,000 人が、20 年後の昭和 56 年（1981 年）には約 33 万 3,000 人と急増した。

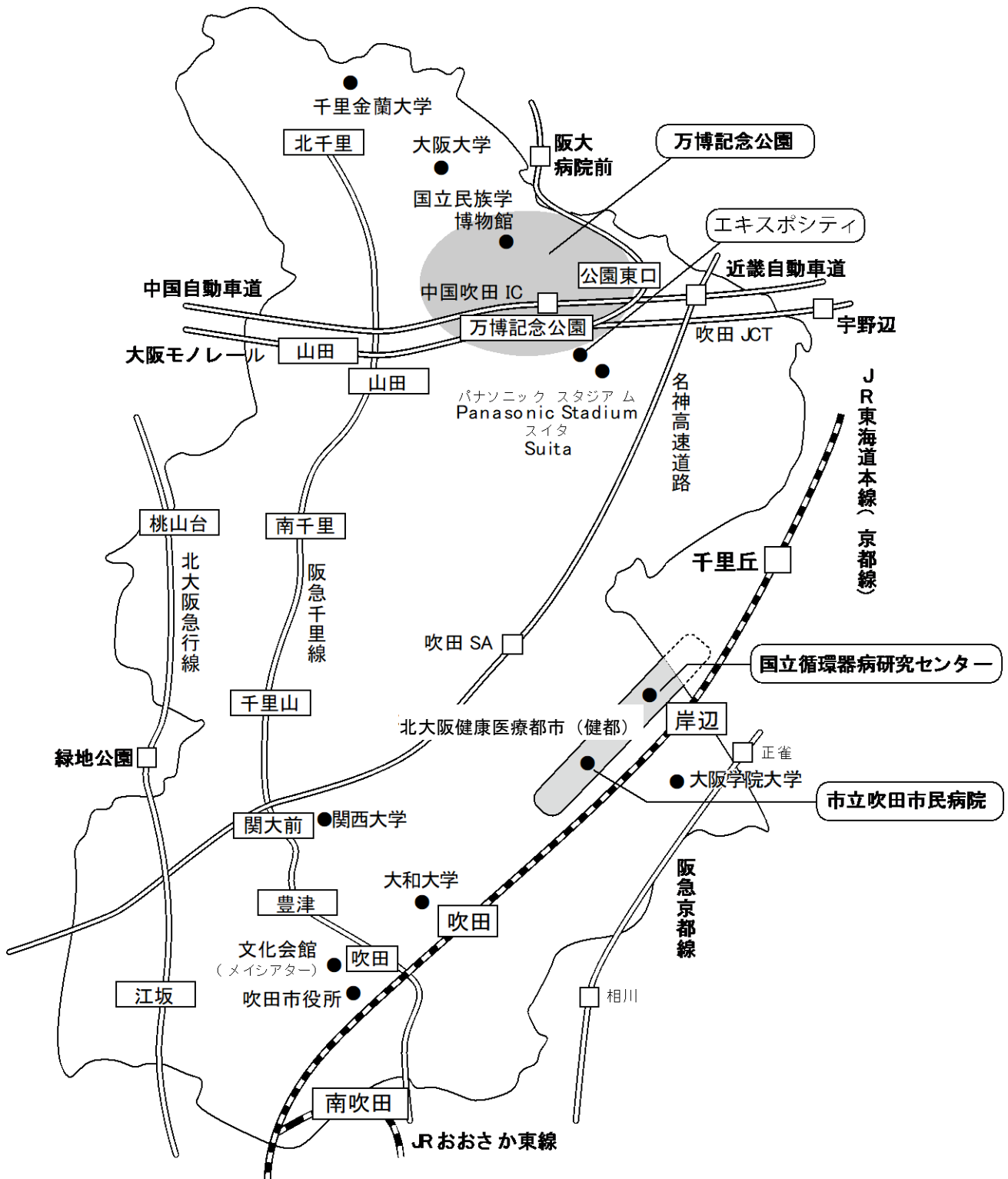
人口増加はその後も続いたが、徐々に伸び率を低下させ、昭和 63 年（1988 年）からは市制施行以来初めての減少に転じた。その後も僅かずつ減少を続けたが、現在では増加傾向にある。一方、世帯数は増えており、世帯規模が小さくなる傾向が続いている。人口構成では、平成 23 年（2011 年）に 65 歳以上の人口が総人口の 20%を超え、市南部地域を始め、入居後 60 年を経過した千里ニュータウン地域でも高齢化が進んでいる。

高度経済成長期とそれに続く時代は、人口急増とともに、これに対する都市基盤の整備や、現在の住宅文化都市としての基礎がつくられた時代である。昭和 45 年（1970 年）に開かれた万国博は、約 260ha の広大な跡地を残し、ここに国立民族学博物館を始めとする多くの文化施設が建設された。また、その周辺地域には、大阪大学が誘致されたのを始め、その後、バイオサイエンス関係の研究施設、大阪大学医学部附属病院などが建設され、市北部地域での学術研究施設の集積が進んでいる。さらに、平成 27 年（2015 年）には、万博公園南側エリアに大型複合施設（EXPOCITY）やガンバ大阪がホームグラウンドとする Panasonic Stadium Suita（市立吹田サッカースタジアム）が開設し、日本有数の集客エリアともなっている。

万国博の開催は、新御堂筋、大阪市営地下鉄、北大阪急行電鉄といった交通網の整備も促し、市の区画整理事業が実施されたこともあって、大阪市内、新幹線新大阪駅と直結した江坂地区では商業・業務施設の集積が進み、大阪市に隣接した新しい都心として発展している。

岸部地域では、吹田操車場跡地に市民病院が平成 30 年（2018 年）12 月 1 日に、国立循環器病研究センターが令和元年（2019 年）7 月 1 日にそれぞれ移転建て替えしたほか、その周辺には医療関連企業などを誘致するとともに、環境に関する先進的な取組も取り入れるなど、「健康・医療のまちづくり」基本方針に基づく北大阪健康医療都市（健（けん）都（と））の整備が進められている。また、南吹田地域では、平成 31 年（2019 年）3 月 16 日、西日本旅客鉄道（JR 西日本）おおさか東線北区間の開業に伴い、南吹田駅が設置され、本市の南の新しい玄関口として期待が寄せられている。

4 市内の主な交通機関



都市宣言

1 非核平和都市宣言

(1) 宣 言 文

真の恒久平和は、人類共通の願いである。

しかるに、近年、世界において軍備の拡張は依然として続けられ、世界平和に深刻な脅威をもたらしていることは、全人類のひとしく憂えるところである。

わが国は、世界最初の核被爆国として、また、平和憲法の精神からも再びあの広島・長崎の惨禍を絶対に繰り返させてはならない。

吹田市は、日本国憲法にうたわれている平和の理念を基調に、市民の健康で文化的な生活の向上をめざし“すこやかで心ふれあう文化のまち”づくりをすすめており、平和なくしては、その実現はありえない。

よって、吹田市は、平和を希求する市民の総意のもとに、わが国の非核三原則が完全に実施されることを願うとともに、核兵器の廃絶を訴え、ここに非核平和都市であることを宣言する。

(2) 議決年月日 昭和58年(1983年)8月1日

(3) 宣言年月日 昭和58年(1983年)8月1日

2 健康づくり都市宣言

(1) 宣 言 文

健康は、心ゆたかで活力に満ち充実した生活を営むための最も重要な基礎をなす市民共通の強いねがいであり、本市がめざす“すこやかで心ふれあう文化のまち”づくりの基本理念でもある。

本市は、この理念達成のため、市民の理解と参加を得て、健康づくり都市の実現に向けてとりくむことをここに宣言する。

(2) 議決年月日 昭和58年(1983年)10月11日

(3) 宣言年月日 昭和58年(1983年)10月11日

3 安心安全の都市づくり宣言

(1) 宣 言 文

私たちのまちは、人々が互いに助け合い、思いやりながら共に生き、将来を担う子どもたちが、すこやかに育つことのできる安心安全なまちでなければなりません。

安心してくらすことのできる安全なまち、いつまでも誇りをもって住み続けたいと思えるまちは市民みんなの願いです。

こうした思いをもとに、吹田市は、市民一人ひとりのつながりの輪を広げ、市の将来像である“人が輝き、感動あふれる美しい都市 すいた”を目指し、市民、企業、行政が力を合わせて「安心安全の都市づくり」に取り組むことをここに宣言します。

(2) 議決年月日 平成 20 年(2008 年) 3 月 14 日

(3) 宣言年月日 平成 20 年(2008 年) 3 月 14 日

友好交流都市

昭和57年(1982年)にスリランカ・モラトワ市と、平成元年(1989年)には、オーストラリア・バンクスタウン市(現カンタベリバンクスタウン市)と友好都市提携を結び、国際相互理解の増進と国際友好親善の促進を図っている。

国内では、新潟県妙高市、福井県若狭町、大阪府能勢町、滋賀県高島市、高知県土佐町、兵庫県香美町とフレンドシップ協定を結び、文化・スポーツを中心に交流を行っている。また、災害時における相互応援協定も結び、大規模な災害などが発生し応援が必要と判断される場合、災害避難者の応援物資を提供するとともに、人員の派遣を行うなど、相互に支援することとしている。

1 国際交流都市

(1) スリランカ／モラトワ市

コロンボの南20kmに位置する都市である。塗装、機械、縫製などの産業が盛んで、スリランカの技術大学の一つ、モラトワ大学があることでも有名。昭和57年(1982年) 7 月20日調印。

(2) オーストラリア／カンタベリバンクスタウン市

カンタベリバンクスタウン市は、シドニーの南西20kmに位置する住宅、文化、商業都市である。平成12年(2000年)のオリンピックでは自転車競技が開催された。平成元年(1989年) 3 月 9 日調印。

2 国内交流都市

(1) 新潟県／妙高市

妙高戸隠連山国立公園に属する妙高山麓と高田平野からなり、雄大な自然の景観の中、温泉やスキー場が有名な都市である。平成14年(2002年)8月28日に締結。

(2) 福井県／若狭町

若狭湾国定公園に指定された若狭湾、三方五湖や三十三間山など美しい自然に囲まれた都市である。平成16年(2004年)11月13日に締結。

(3) 大阪府／能勢町

谷間に広がる田園、山の斜面に開かれた棚田、特産品である銀寄の栗林など生物多様性を育む緑豊かな都市である。平成17年(2005年)8月29日に締結。

(4) 滋賀県／高島市

滋賀県の北西部に位置し、琵琶湖と比良山系に囲まれ、夏は水泳、冬はスキーが楽しめる都市である。平成17年(2005年)9月1日に締結。

(5) 高知県／土佐町

三方を1千m級の山々に囲まれた山岳景観や吉野川へ注ぐ溪流景観が楽しめる自然豊かな都市である。平成19年(2007年)12月7日に締結。

(6) 兵庫県／香美町

氷ノ山後山那岐山国定公園、山陰海岸国立公園などの山や海と、その間を矢田川が流れる自然豊かな都市である。平成20年(2008年)11月12日に締結。

大学のあるまちづくり

吹田市と市内の大学・研究機関（大阪大学、関西大学、大阪学院大学、千里金蘭大学、大和大学、国立民族学博物館）、市外大学（大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学）が、歴史的・文化的資源の活用及び知的・人的資源の交流を図ることにより、文化、まちづくり等の分野において、双方の発展と充実に寄与し、地域連携を積極的に推進することを目的として、包括協定を結んでいる。

人口の動き

1 人口の推移

(行政区域内人口は各年3月31日現在)

年次	面積 (km ²)	世帯数	人口			人口密度 (1km ² あたり)	摘要
			総数 (人)	男 (人)	女 (人)		
昭和15(1940)	20.45	14,326	66,094	33,651	32,443	3,232	第5回国勢調査
〃 22(1947)	〃	16,907	72,197	36,211	35,986	3,530	6 〃
〃 25(1950)	〃	17,415	78,415	39,137	39,278	3,834	7 〃
〃 30(1955)	21.50	19,573	88,458	44,262	44,196	4,114	8 〃
〃 35(1960)	36.60	29,080	116,765	58,993	57,772	3,190	9 〃
〃 40(1965)	〃	55,298	196,779	101,366	95,413	5,376	10 〃
〃 45(1970)	〃	75,944	259,619	133,163	126,456	7,093	11 〃
〃 50(1975)	〃	93,171	300,956	153,357	147,599	8,223	12 〃
〃 55(1980)	〃	114,692	332,418	167,749	164,669	9,082	13 〃
〃 60(1985)	〃	121,359	348,948	174,696	174,252	9,534	14 〃
平成2(1990)	〃	125,144	345,206	172,111	173,095	9,432	15 〃
〃 7(1995)	36.11	132,499	342,760	170,177	172,583	9,492	16 〃
〃 12(2000)	〃	141,846	347,929	171,913	176,016	9,635	17 〃
〃 17(2005)	〃	149,525	353,885	173,154	180,731	9,800	18 〃
〃 22(2010)	〃	154,702	355,798	171,769	184,029	9,853	19 〃
〃 27(2015)	36.09	168,473	374,468	180,669	193,799	10,376	20 〃
令和2(2020)	〃	180,099	385,567	185,305	200,262	10,683	21 〃
〃 3(2021)	〃	177,152	376,944	180,317	196,627	10,445	行政区域内人口
〃 4(2022)	〃	179,397	378,781	180,887	197,894	10,495	〃
〃 5(2023)	〃	182,636	381,238	181,884	199,354	10,564	〃
〃 6(2024)	〃	184,802	382,336	182,052	200,284	10,594	〃
〃 7(2025)	〃	190,788	394,503	187,994	206,509	10,931	第22回国勢調査

(注) 市域面積は、国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」による。

2 人口動態

(単位：人)

年 度	人口増減	自然動態			社会動態		
		増減数	出 生	死 亡	増減数	転 入	転 出
令和元(2019)	2,948	△72	3,004	3,076	3,020	23,714 (2,548)	20,694 (2,548)
〃 2(2020)	2,966	△84	3,039	3,123	3,050	22,658 (2,676)	19,608 (2,676)
〃 3(2021)	1,837	△386	3,021	3,407	2,223	22,108 (2,501)	19,885 (2,501)
〃 4(2022)	2,457	△548	3,001	3,549	3,005	23,803 (2,210)	20,798 (2,210)
〃 5(2023)	1,098	△696	2,934	3,630	1,794	23,164 (2,164)	21,370 (2,164)
〃 6(2024)	1,714	△932	2,859	3,791	2,646	22,204 (2,346)	19,558 (2,346)
〃 7(2025)	1,595	△830	2,717	3,547	2425	18,989 (2,360)	16,564 (2,360)

- (注) 1 転入には、転出取消、職権記載等を含む。
2 転出には、職権消除等を含む。
3 転入、転出には市内転居の一部を含む。()で表示。

3 昼間の人口

(各年国勢調査 単位：人)

年 次	夜間人口	流入人口	流出人口	昼間人口	差引増減	昼間人口指数 (夜間人口=1)
昭和55(1980)	332,418	81,363	106,499	306,923	△25,136	0.92
〃 60(1985)	348,948	92,930	118,558	322,980	△25,628	0.93
平成2(1990)	345,206	111,697	124,781	330,808	△13,084	0.96
〃 7(1995)	341,361	118,925	124,165	335,886	△5,240	0.98
〃 12(2000)	347,400	113,134	114,588	345,909	△1,454	1.00
〃 17(2005)	351,480	104,703	112,964	343,219	△8,261	0.98
〃 22(2010)	355,798	100,988	112,061	350,816	△11,073	0.90
〃 27(2015)	374,468	99,695	111,426	362,737	△11,731	0.97
令和2(2020)	385,567	96,078	110,621	371,024	△14,543	0.96

(注) 流入、流出人口は、年齢等不詳を除いたので、夜間人口と内訳は一致しない。

4 流出先別流出人口

(単位：人)

流出先 区分	平成27年(2015年)			令和2年(2020年)		
	総 数	就業者	通学者	総 数	就業者	通学者
府内へ	95,410	84,920	10,490	95,335	86,528	8,807
大 阪 市	59,208	55,504	3,704	59,602	56,484	3,118
豊 中 市	9,118	7,549	1,569	9,037	7,648	1,389
箕 面 市	2,889	2,389	500	2,927	2,501	426
茨 木 市	7,319	5,471	1,848	7,461	5,837	1,624
摂 津 市	4,486	3,939	547	4,351	3,918	433
そ の 他	12,390	10,068	2,322	11,957	10,140	1,817
他府県へ	16,015	12,602	3,413	14,319	11,733	2,586
兵 庫 県	7,562	6,279	1,283	7,318	6,371	947
京 都 府	4,870	3,341	1,529	4,714	3,469	1,245
奈 良 県	575	382	193	472	343	129
和 歌 山 県	125	100	25	124	98	26
滋 賀 県	793	564	229	726	558	168
三 重 県	61	57	4	37	34	3
そ の 他	2,029	1,879	150	928	860	68
計	111,425	97,522	13,903	109,654	98,261	11,393

(注) 流出先別流出人口は、流出人口のうち15歳以上就業者及び通学者を対象としている。

5 産業別就業人口

(各年国勢調査)

区分 區別		平成22年(2010年)		平成27年(2015年)		令和2年(2020年)	
		就業人口 (人)	率 (%)	就業人口 (人)	率 (%)	就業人口 (人)	率 (%)
第一次産業	農業	307	0.2	305	0.2	284	0.2
	林業	7	0.0	7	0.0	10	0.0
	漁業	3	0.0	5	0.0	5	0.0
	計	317	0.2	317	0.2	299	0.2
第二次産業	鉱業	1	0.0	4	0.0	3	0.0
	建設業	9,517	6.0	9,421	5.7	9,780	5.8
	製造業	18,534	11.7	21,439	13.0	20,138	12.0
	計	28,052	17.7	30,864	18.7	29,921	17.8
第三次産業	電気・ガス・熱供給・水道業	647	0.4	675	0.4	718	0.4
	情報通信業	6,373	4.0	6,877	4.2	7,958	4.8
	運輸・郵便業	8,333	5.2	8,197	5.0	8,661	5.2
	卸売・小売業	31,896	20.1	28,905	17.5	30,705	18.3
	金融・保険業	6,428	4.0	6,559	4.0	6,127	3.7
	不動産・物品賃貸業	5,433	3.4	5,865	3.5	6,154	3.7
	学術研究、専門・技術サービス業	7,182	4.5	7,520	4.6	8,627	5.2
	宿泊・飲食サービス業	8,993	5.7	8,922	5.4	8,732	5.2
	生活関連サービス・娯楽業	5,674	3.6	5,350	3.2	5,396	3.2
	教育・学習支援業	9,023	5.7	9,547	5.8	10,615	6.3
	医療・福祉	15,770	9.9	18,518	11.2	21,176	12.6
	複合サービス事業	545	0.3	725	0.4	675	0.4
	サービス業	10,015	6.3	10,706	6.5	12,351	7.4
	公務	3,487	2.2	3,825	2.3	3,956	2.4
	計	119,799	75.3	122,191	74.0	131,851	78.8
分類不能		10,879	6.8	11,782	7.1	5,418	3.2
総数		159,047	100.0	165,154	100.0	167,489	100.0

府内各市の概要

市 名	人 口 (人)		議員 定数 (人)	面積 (km ²)	市 制 施 行 年 月 日
	令和6年(2024年) 1月1日現在	令和7年(2025年) 10月1日国勢調査			
大 阪	2,757,642	2,808,624	81(96)	225.34	明治22年(1889年)4月1日
吹 田	382,681	394,503	36(46)	36.09	昭和15年(1940年)4月1日
豊 中	406,836	404,479	34(46)	36.39	〃 11年(1936年)10月15日
高 槻	346,972	345,475	34(46)	105.29	〃 18年(1943年)1月1日
茨 木	285,715	287,098	28(38)	76.49	〃 23年(1948年)1月1日
箕 面	139,318	140,586	23(34)	47.90	〃 31年(1956年)12月1日
池 田	102,969	104,148	22(34)	22.14	〃 14年(1939年)4月29日
摂 津	86,351	86,462	19(30)	14.87	〃 41年(1966年)11月1日
枚 方	394,221	388,992	32(46)	65.12	〃 22年(1947年)8月1日
寝 屋 川	225,735	222,102	24(38)	24.70	〃 26年(1951年)5月3日
守 口	141,243	140,791	22(34)	12.71	〃 21年(1946年)11月1日
門 真	117,139	111,702	20(34)	12.30	〃 38年(1963年)8月1日
大 東	116,376	113,642	17(34)	18.27	〃 31年(1956年)4月1日
交 野	77,272	75,573	15(30)	25.55	〃 46年(1971年)11月3日
四 條 畷	54,355	53,455	12(30)	18.69	〃 45年(1970年)7月1日
東 大 阪	478,539	482,618	38(56)	61.78	〃 42年(1967年)2月1日
八 尾	260,752	257,600	26(38)	41.72	〃 23年(1948年)4月1日
松 原	116,669	114,815	18(34)	16.66	〃 30年(1955年)2月1日
羽 曳 野	108,213	104,183	18(34)	26.45	〃 34年(1959年)1月15日
富 田 林	107,342	103,296	18(34)	39.72	〃 25年(1950年)4月1日
河内長野	99,226	94,871	18(34)	109.63	〃 29年(1954年)4月1日
柏 原	66,952	65,690	16(30)	25.33	〃 33年(1958年)10月1日
藤 井 寺	62,700	61,129	14(30)	8.89	〃 41年(1966年)11月1日
大阪狭山	58,031	57,479	14(30)	11.92	〃 62年(1987年)10月1日

市 名	人 口 (人)		議員 定数 (人)	面積 (km ²)	市 制 施 行 年 月 日
	令和6年(2024年) 1月1日現在	令和7年(2025年) 10月1日国勢調査			
堺	817,041	803,333	48(56)	149.83	明治22年(1889年)4月1日
岸和田	188,002	185,734	24(38)	72.72	大正11年(1922年)11月1日
和泉	182,841	181,715	24(34)	84.98	昭和31年(1956年)9月1日
泉佐野	99,037	100,329	18(30)	56.50	〃 23年(1948年)4月1日
貝塚	82,500	78,774	17(30)	43.93	〃 18年(1943年)5月1日
泉大津	73,145	71,688	16(30)	14.33	〃 17年(1942年)4月1日
高石	56,481	53,524	15(30)	11.30	〃 41年(1966年)11月1日
泉南	58,789	56,136	15(30)	48.98	〃 45年(1970年)7月1日
阪南	50,788	47,657	14(30)	36.13	平成3年(1991年)10月1日
計	8,775,708	8,598,203	790 (1,244)	——	——

(注) 1 人口は大阪府の住民基本台帳人口を記載

2 議員定数は全国市議会議長会の市議会議員定数に関する調査結果（令和6年(2024年12月31日現在）の条例定数、()内は旧法定数を記載

3 面積は国土地理院が公表している令和8年全国都道府県市区町村別面積調（4月1日時点）を記載

4 町村を含めた大阪府の人口（令和7.10.1国調）は8,764,578人